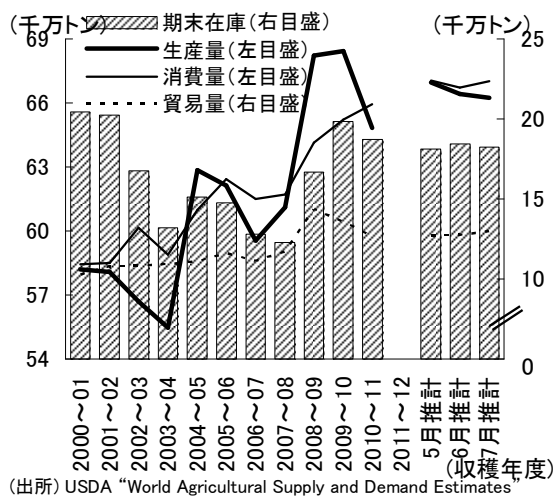


今年も広がる小麦不作懸念

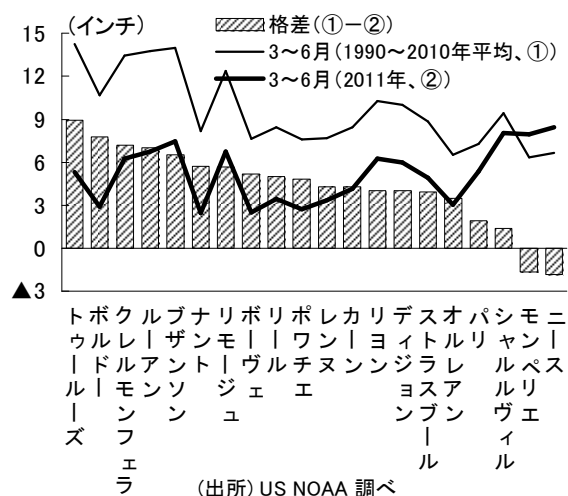
～ 主要生産国で相次ぐ異常気象 ～

- (1) 昨年に引き続いて、今年も小麦生産が需要を下回る懸念が次第に増大。米国農務省は2011収穫年度について5月予測では消費量6億7,049万トンに対して生産量は6億7,218万トンとし、わずかながら生産量が消費量を上回ると予測(図表1)。しかし、6月、7月と月を追って予測生産量が減少。7月には消費量6億7,020万トンに対して生産量は6億6,242万トンとし、▲778万トンの不足を予測。ちなみに、昨年も5月予測から8月予測にかけて下方修正。なお、貿易量は、ほぼ昨収穫年度並みで回復を見込まず。
- (2) 主因は主な生産国での異常気象。まず欧州では、農業国フランスで記録的少雨(図表2)。南仏2地方圏と北東の1地方圏、および首都圏の計4地方圏を除くと、春小麦の播種期に当たる3月以降、例年の2分の1から3分の1の降水量。
- (3) 一方、中国では6月に入り揚子江エリアで洪水被害が出るほど記録的多雨となったものの、小麦の穀倉地帯である華北エリアで冬小麦の播種～生育期に当たる昨秋から今春の降水量が記録的少雨(図表3)。米作エリアである華南エリアでは5月まで記録的少雨の後、6月に入って例年の2倍近い豪雨(図表4)。米作にも打撃。
- (4) 米国では、昨秋に種播された冬小麦が例年を大きく下回る作柄。昨年、泥炭火災で禁輸に踏み切ったロシアやウクライナでは山火事。米国農務省が出した低水準の小麦貿易量予測は、主要生産国の供給余力低下に起因。消費量の増勢が続くなか、価格上昇圧力持続の公算大。

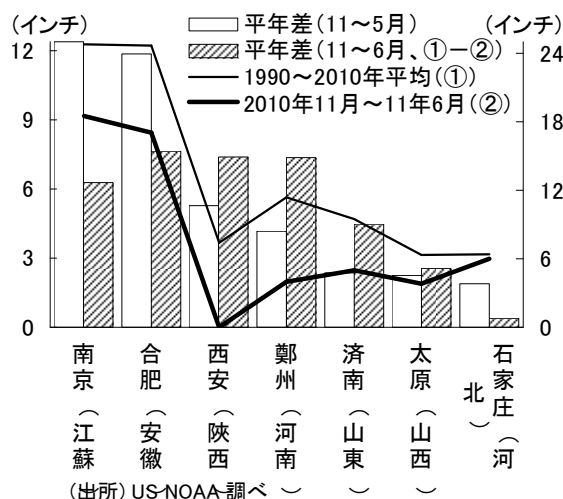
(図表1)世界の小麦生産・消費・貿易・在庫(米農務省)



(図表2)フランス本土20地方圏別にみた主要都市降水量



(図表3)中国華北エリアの7省都別降水量



(図表4)中国華南エリア7省都の合計降水量

